

# マイクロフィルムによる文書の保存サービス アナログとデジタルの相互変換による情報の効果的活用

## MEMO

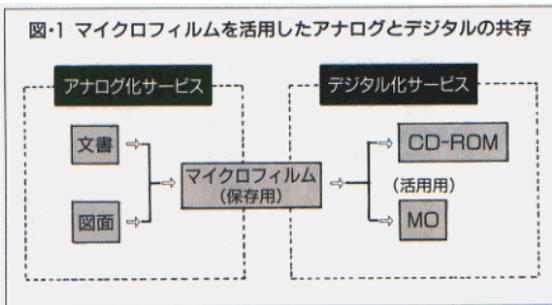
デジタル化された情報化社会のなかでアナログも依然として活躍しています。その一つが「マイクロフィルム」です。国内にマイクロフィルムを扱う業者は数社ありますが、今回は、  
 (株)国際マイクロ写真工業社を取り上げ、アナログとデジタルの双方の長所を活かした新しいサービスを紹介します。

## SYSTEM

同社の従来のサービス内容は、書類の台帳、図面、貴重本等のマイクロフィルム撮影、中央官庁・市町村の永年保存文書管理システムのサポート、貴重図書等の劣化対策、などです。最近では紙やマイクロ写真といったアナログデータをCD-ROMやMO等の光磁気ディスクの記録媒体（デジタル媒体）へ情報入力したり、媒体変換する事業まで拡大しています。

マイクロフィルムの記録媒体としてのメリットは、半永久的保存が可能、法的証拠能力が強い、画像が高品質

入力コストが安い、保管場所の節約ができる。将来、判読の際のハード・ソフトの陳腐化がない、などです。一方、デジタル媒体であるCD-ROMやMOは、活用方法や保管場所の節約という点ではアナログ媒体以上のメリットがあります。法的証拠能力はマイクロフィルムには及びません。また保全性においても、誤操作、天災等によるちよつとしたキズやカビによって読みとれなくなってしまう欠点があります。



そこで、同社のサービスを利  
 用し、アナログとデジタルの相互に変換すれば、  
 情報内容別に次のように対応できます。

縮小して永年保存はマイクロフィルム化する。一過性の活用情報は光磁気ディスクのデジタ

ル情報を使う。活用頻度が高く、法的証拠能力を要し、かつ永年保存の情報は両方の媒体を活用する。

## COST & USE

紙（ペーパー）資料からマイクロフィルム、および紙やマイクロフィルムからのデジタル化の費用は、その内容や量によって異なるので一概に言えませんが、最近では省力化のためのアウトソーシングを目的とした業務の依頼が増加しています。

## FUTURE

従来の事業であるマイクロフィルムへの入力サービスは、完全保存のためのバックアップツールでした。今回、これにデジタル媒体への変換サービスを加えることにより、活用の幅が大きく広がりました。今後、アナログとデジタルの両面のサービスは、相乗効果が表れ、用途のいつそこの拡大が期待されます。

取材協力 (株)国際マイクロ写真工業社  
 デジタルシステム部  
 03 (3260) 5931  
<http://www.kms.gol.com/>

当社主任 コンサルタント 中小企業診断士 中野 孝	評価	A
	成長性	B
	採算性	C
		参入難易度

